

生活保護 生活実態調査結果報告



埼玉県民主医療機関連合会

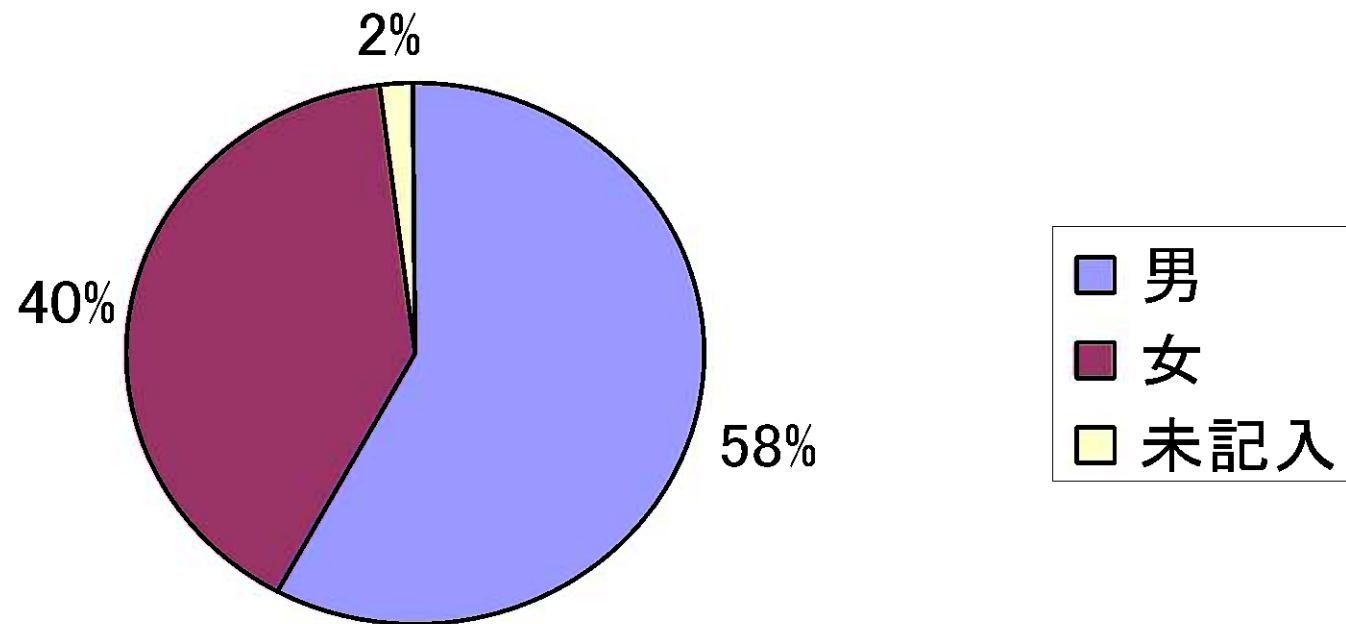
会長 山田昌樹

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1317

ふれあい会館2階 電話048-296-5408

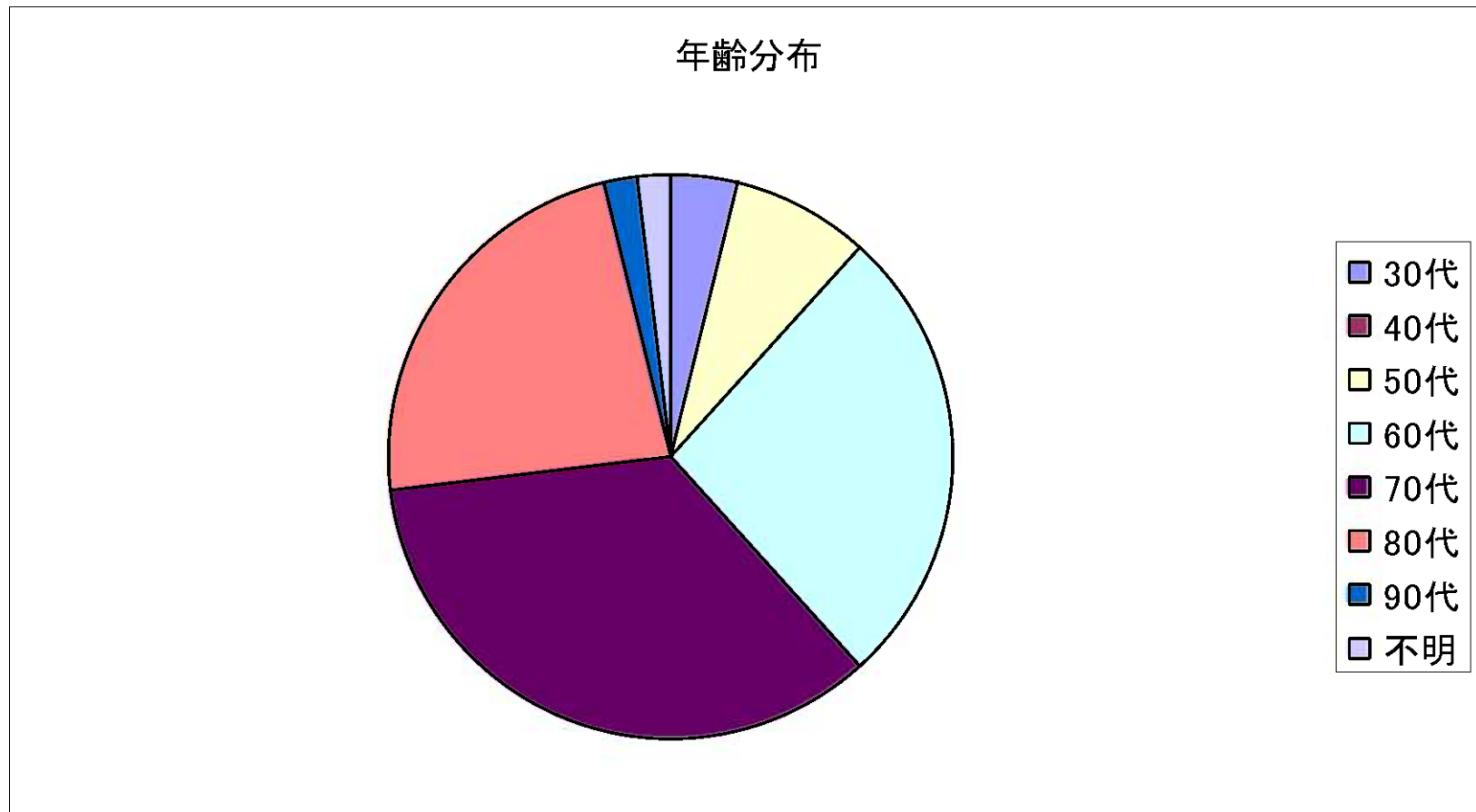
基礎データ 【性別】

男女比



基礎データ 【年齢】

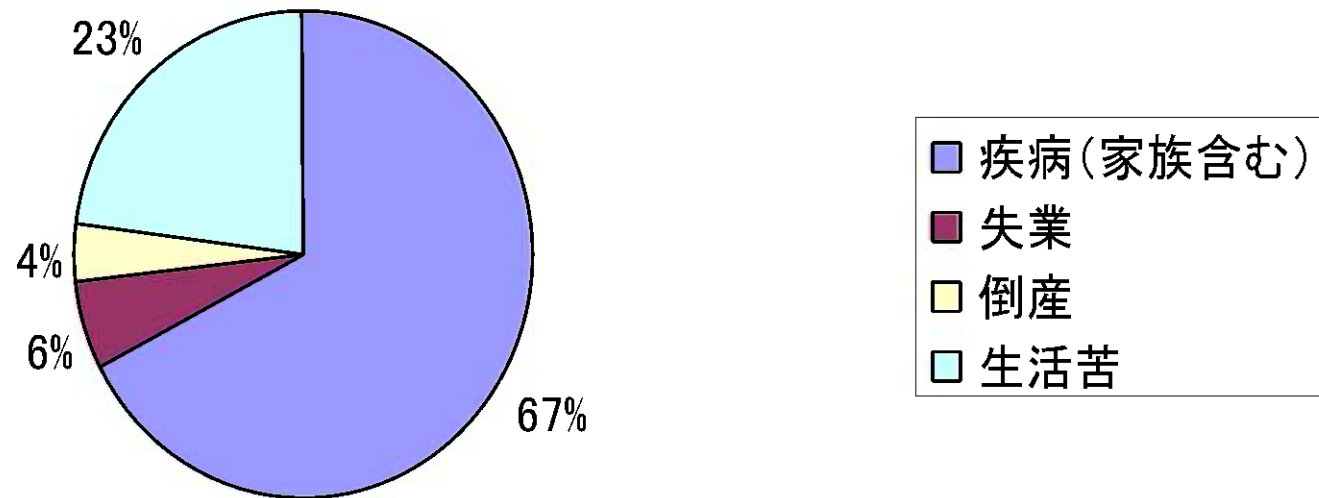
70代が35%、60代が27%、80代が23%



【生活保護申請のきっかけ】

- 疾病が大半を占める。
- 生活苦は収入不足や貯蓄底尽き等。

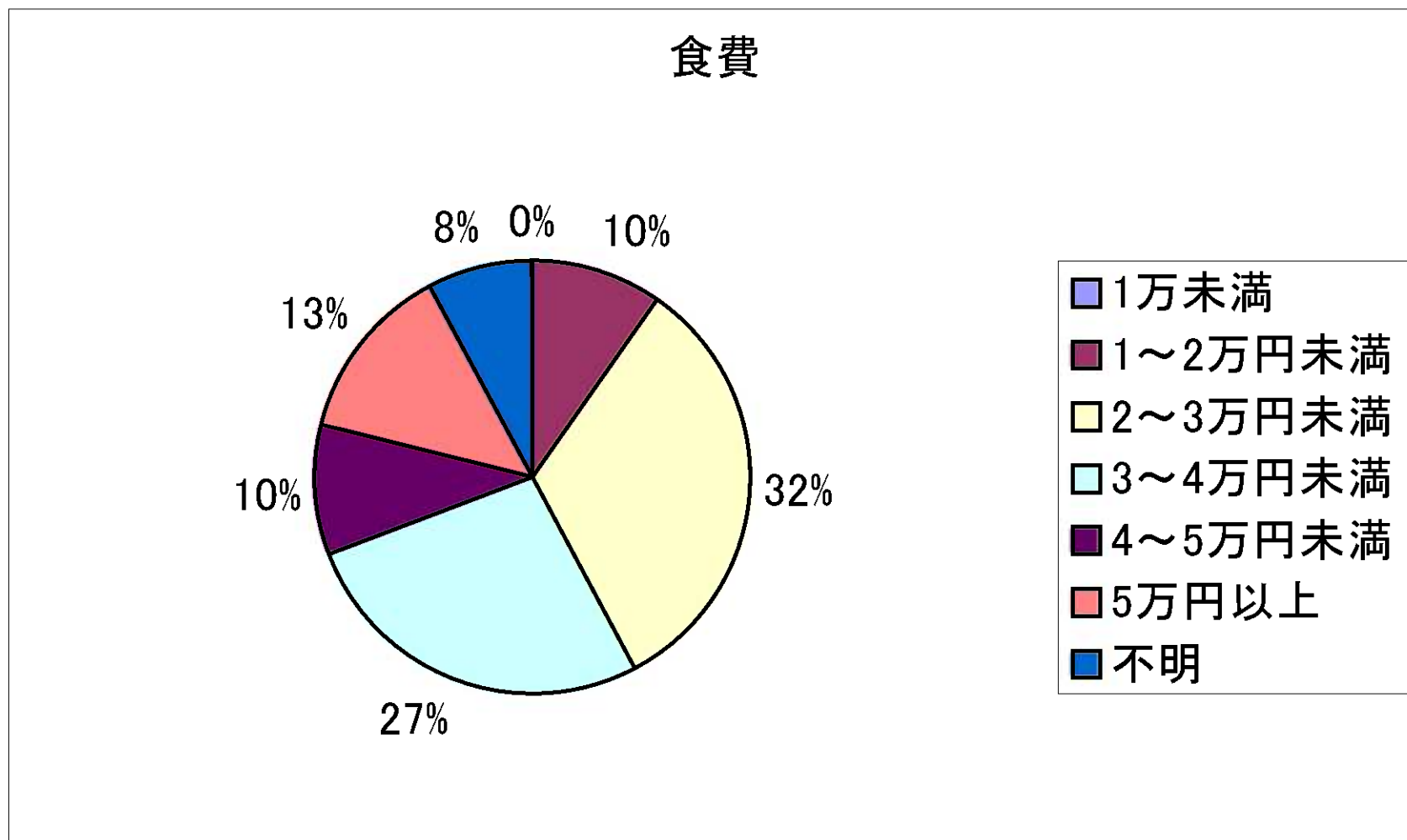
申請のきっかけ



健康で文化的な最低限度の生活の保障①

【食費】

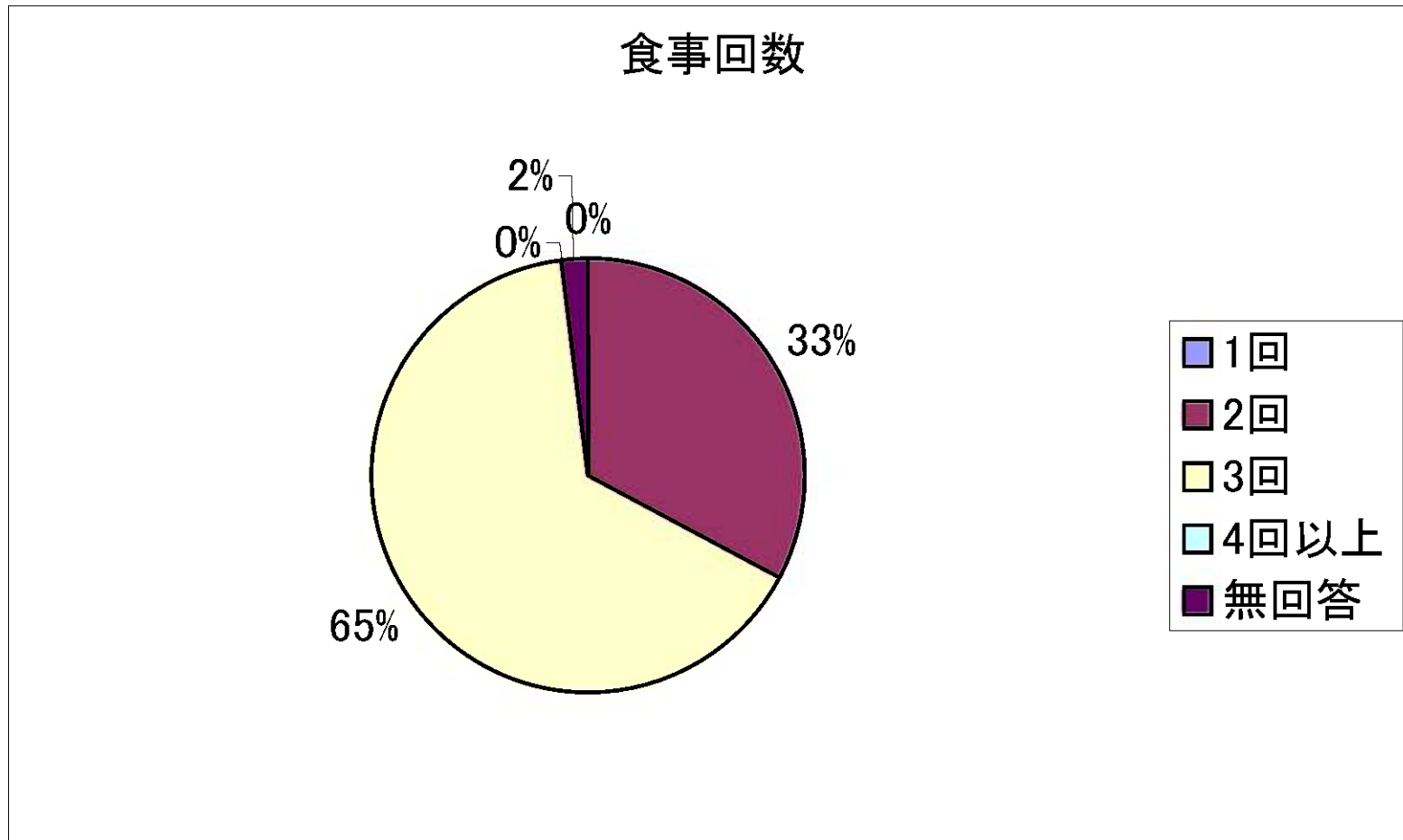
食費1日1000円未満42%、645円未満だと10%



健康で文化的な最低限度の生活の保障①

【食事回数】

33%が2回以下。



【食事の工夫と疾病の状況】

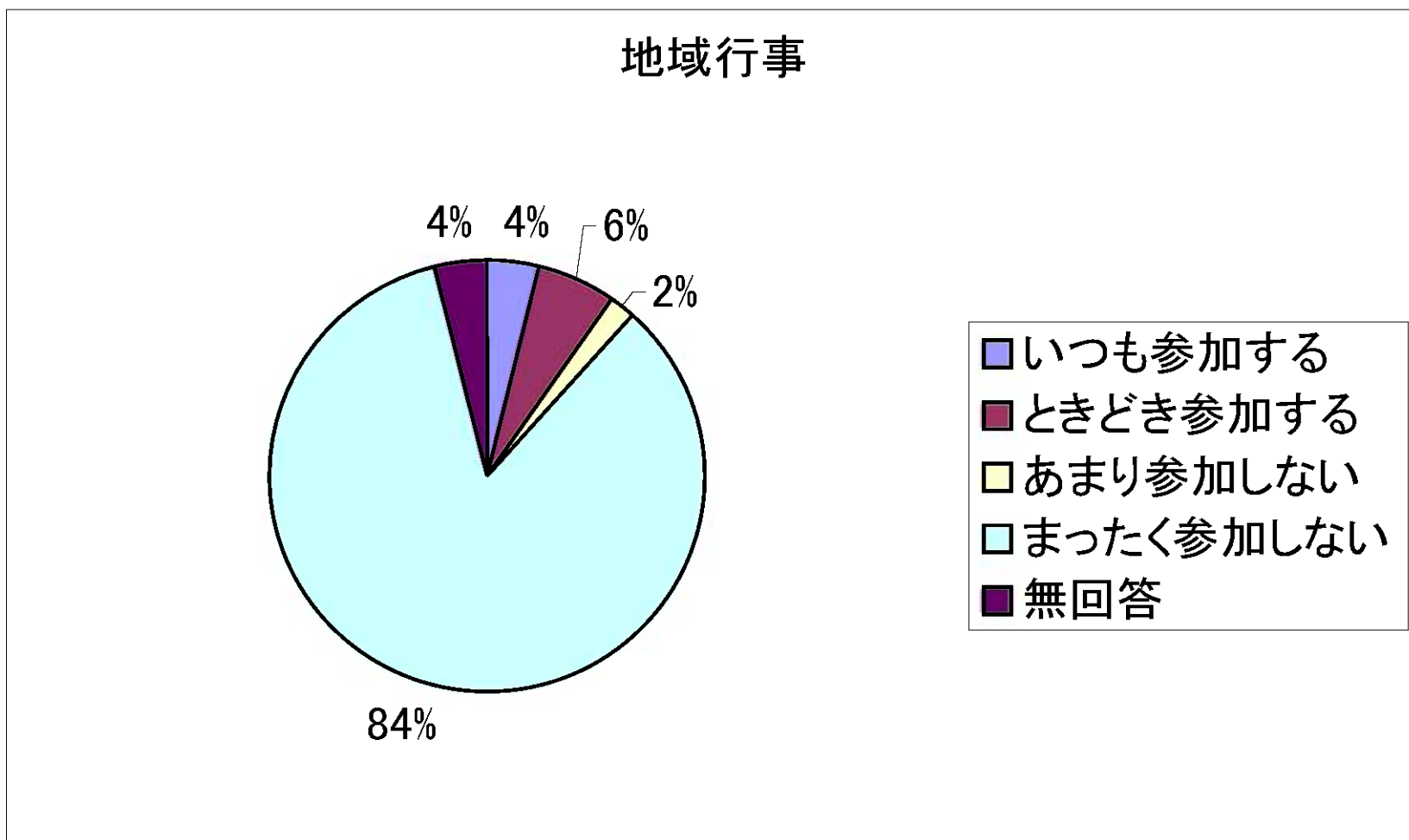
（自由記載より抜粋）資料①

- 弁当、買った惣菜を数回に分けて食べる。
- 煮物等を多くして日持ちするように調理。
- まとめ買い、まとめ調理。冷凍保存。
- 肉は高いから食べていない。
- カロリーが高い物を摂り、腹持ちをよくしている。

健康で文化的な最低限度の生活の保障②

生活の社会的文化的な側面【地域行事】

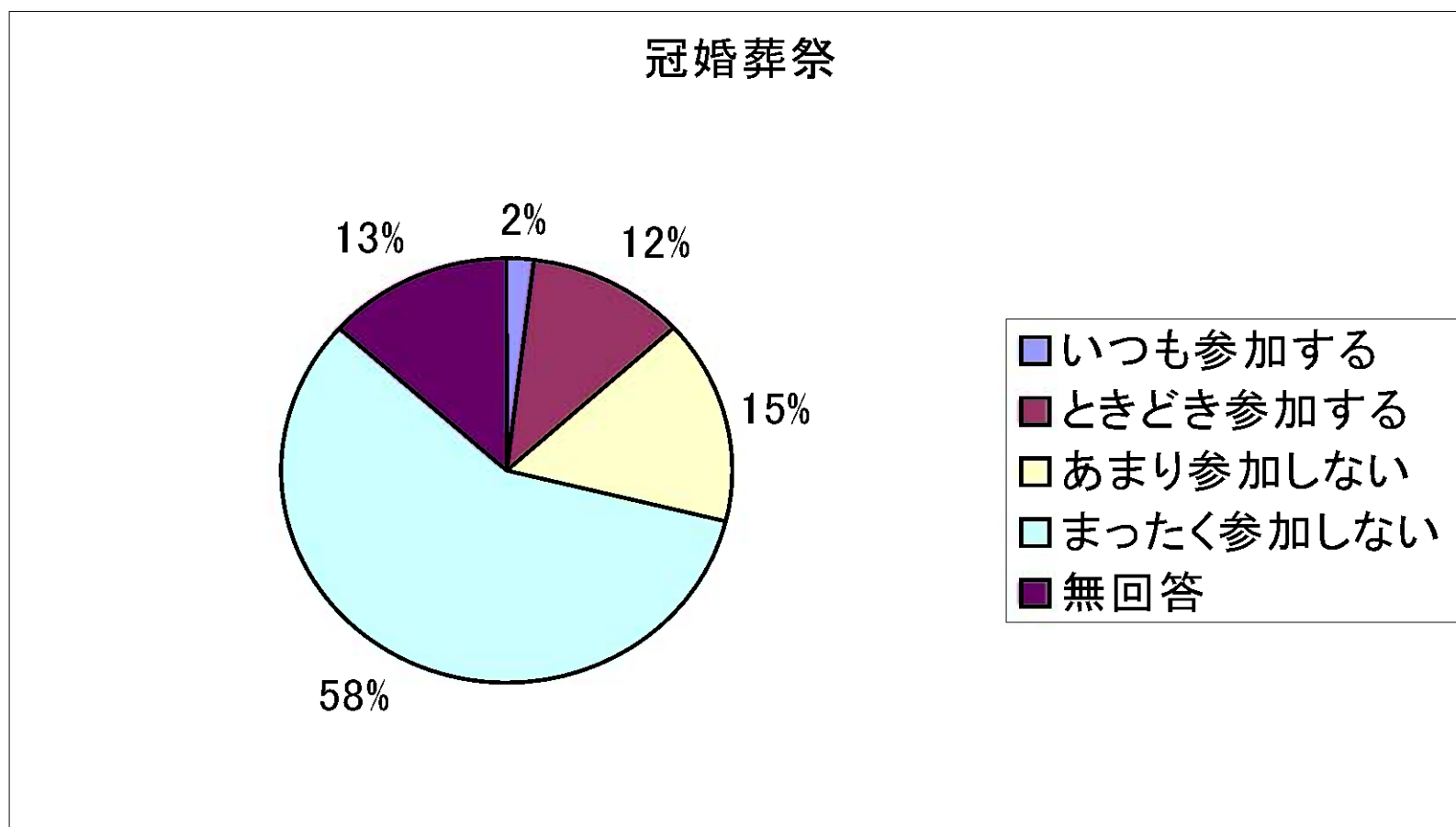
まったく参加しない(84%)。



健康で文化的な最低限度の生活の保障②

生活の社会的文化的な側面【冠婚葬祭】

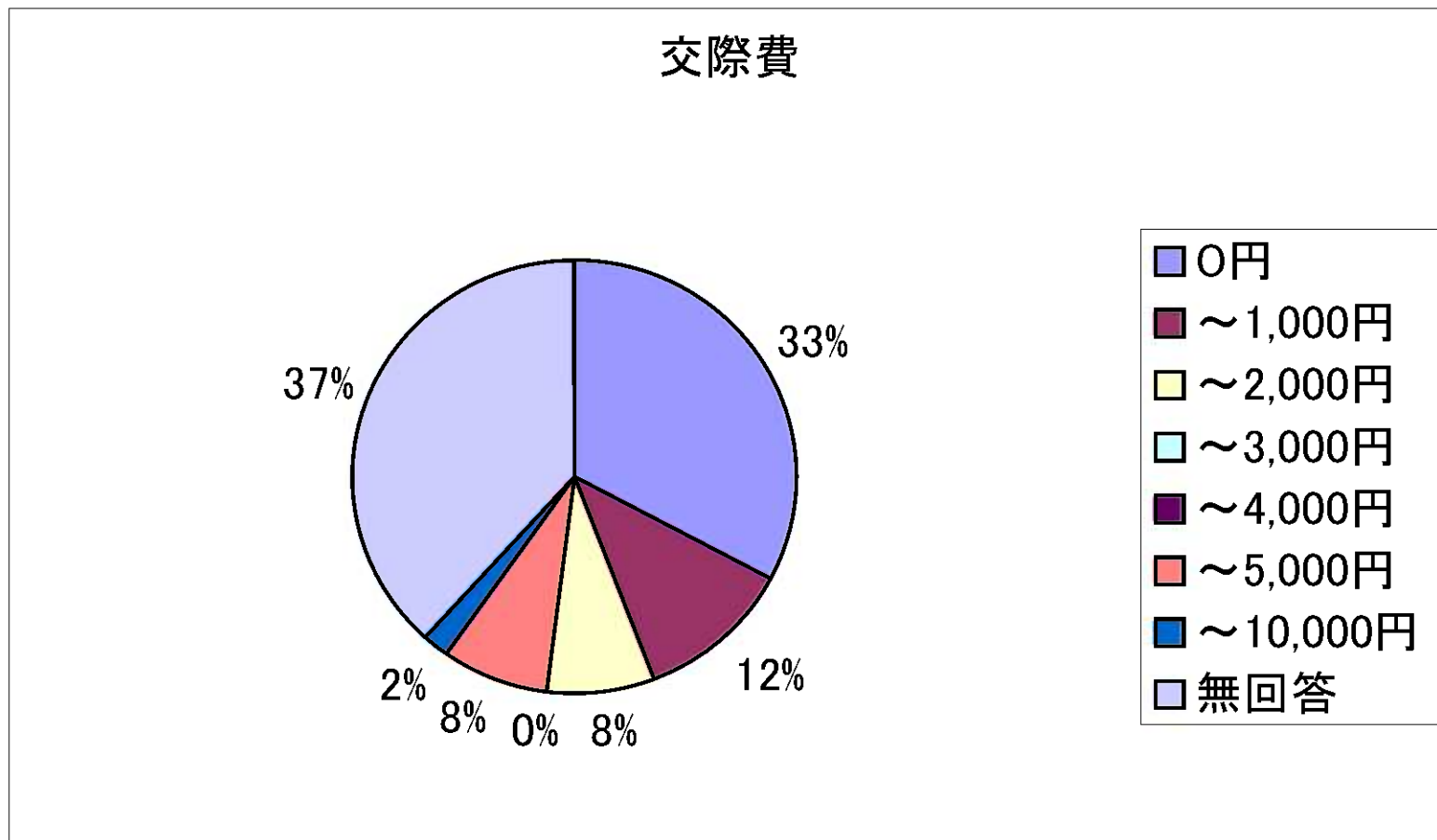
あまり参加しない(15%)まったく参加しない(58%)
合計73%。



健康で文化的な最低限度の生活の保障②

生活の社会的文化的な側面 【交際費】

0円が33%。1000円未満(12%)を合わせ、45%。



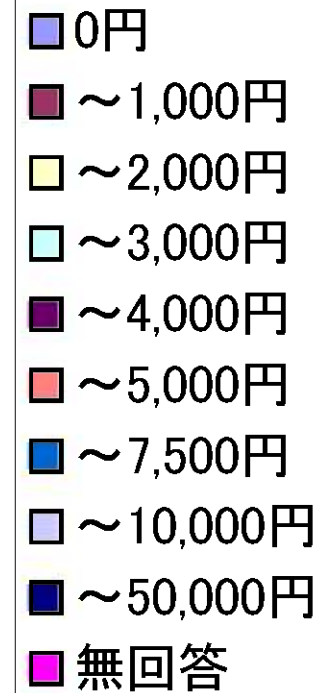
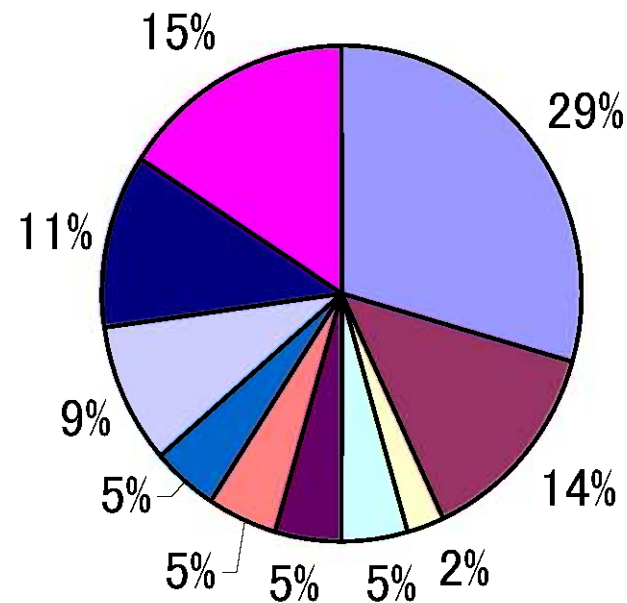
健康で文化的な最低限度の生活の保障② 生活の社会的文化的な側面について

- 経済的な側面、あるいは生活保護受給の肩身の狭さ(自由記載)から地域の付き合いの参加は極端に少ない。
- 冠婚葬祭も同様の傾向がある。地域や親族間のつながりの希薄化にもつながる。

【教養・娯楽】

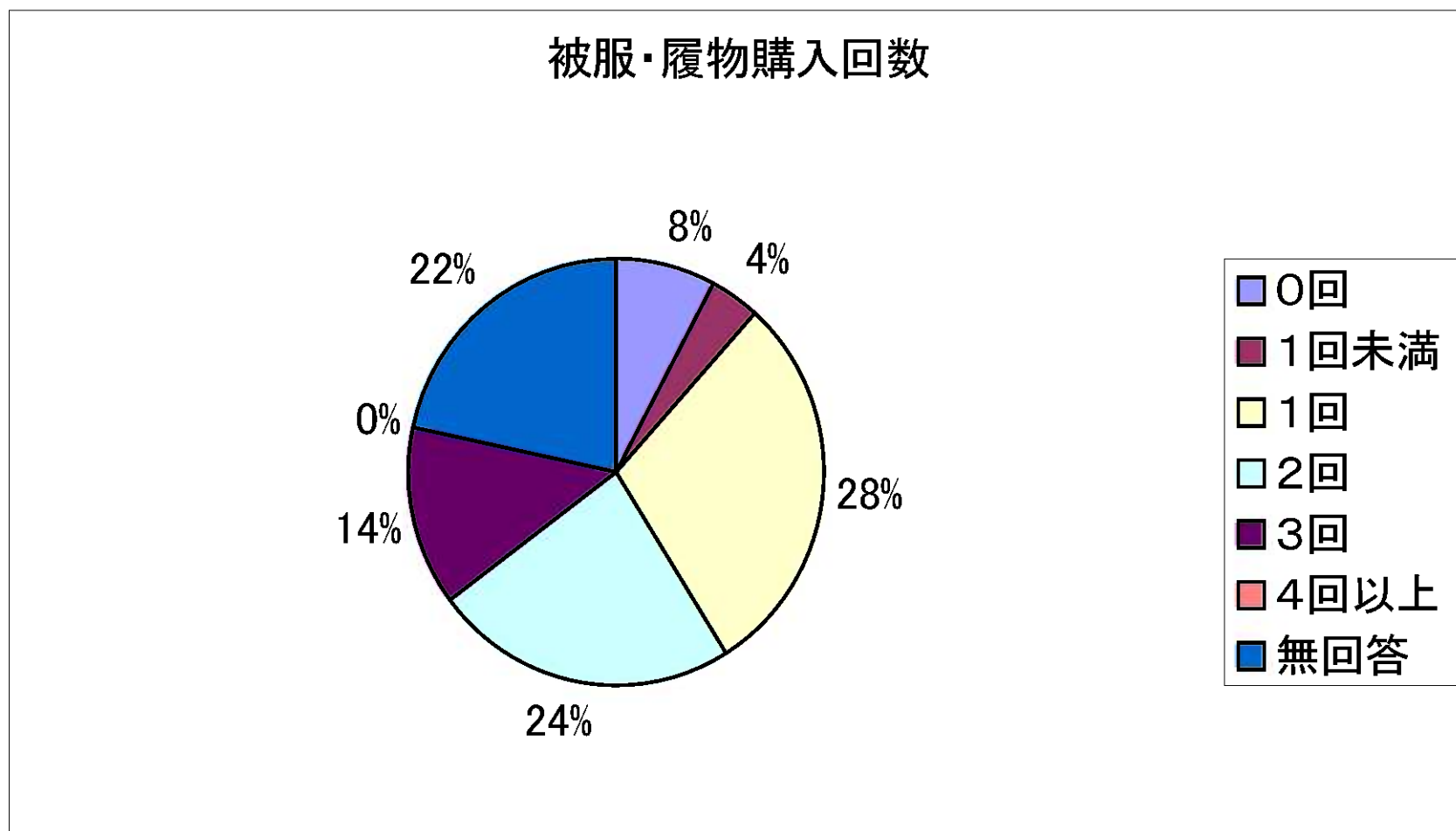
29%が0円。45%が1ヵ月2000円以下。

教養娯楽費用



【1年間の被服・履物の購入回数】

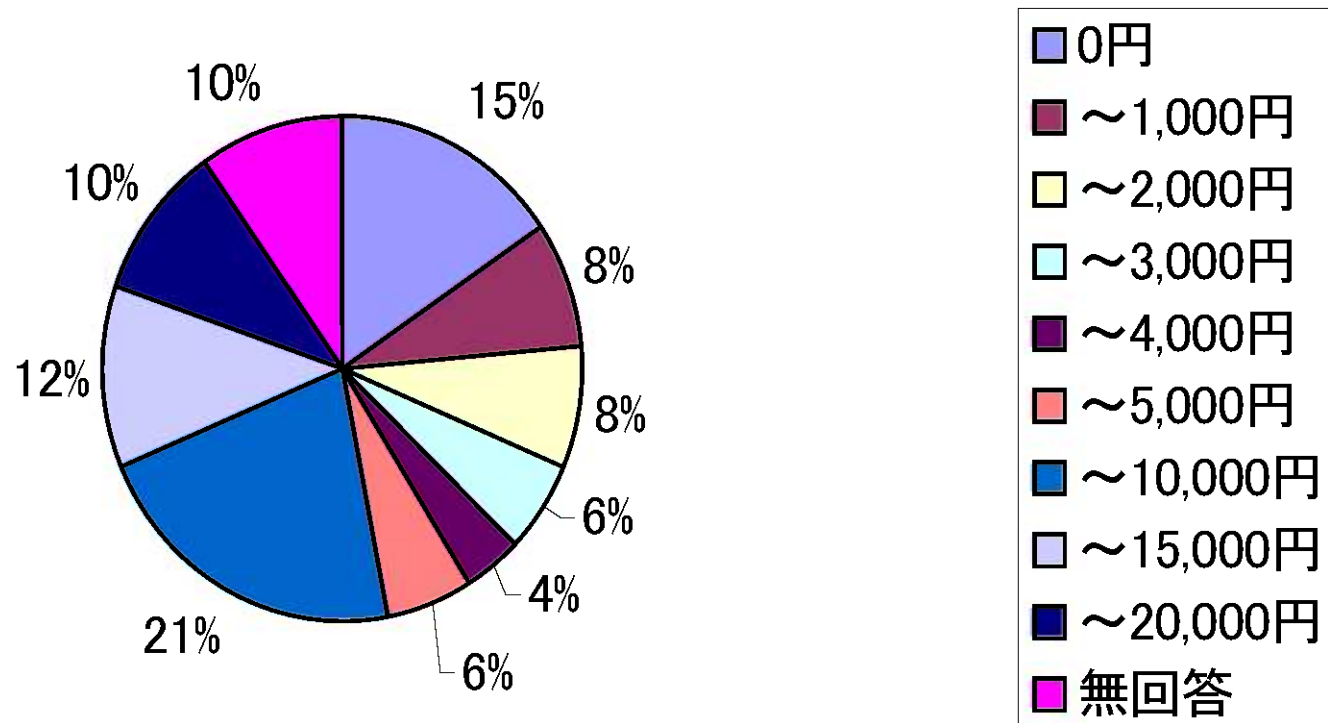
8%が0回、1回以下は32%、64%が2回以下。



【1年間の被服・履物の購入金額】

15%が0円。47%が5000円以下。

被服・履物購入金額



【支出を抑える工夫】

(自由記載より抜粋)資料②

- **食費 21人**

野菜を安く購入する。安い時に多く買う。

- **光熱費 14人**

暖房は使わず厚着。エアコンは使わない。

- **被服 12人**

下着以外は買わない。衣類は買わない、もらい物ばかり。10年以上買っていない。

- **他**

自分で散髪。冠婚葬祭断る。他者と関わらない。

【生活保護受給して良かったこと】

(自由記載より抜粋)資料③

- **生活費の保障 23人**

ごはんの心配が無くなった。生きていくことの保障になった。命が救われた。

- **医療が受けられる 19人**

病院にかかれるようになった。医療費の心配が無くなった。介護保険サービスが使える。

- **住まいの保障 5人**

屋根の下で寝られる。アパート家賃が払える。

【生活保護受給して悪かったこと】

(自由記載より抜粋)資料④

- 偏見の目 14人

世間体が悪い。片身が狭い。受給知られたくない。気持ちに余裕がなくなる。罪悪感。バカにされる。風評気になる。「働かなくても保護受給で良いね」と言われた、働けるなら保護受けたくない。

- 生活の制限 9人

仕事がしばられた。車が持てない。たばこ・酒・買い物が限られる。物品整備ができない。

【生活保護基準の切り下げについて】

(自由記載より抜粋) 資料⑤

- 今だってギリギリ、これ以上減らされたら困る。
- 「死ね」と言われた気分になった。今でさえ苦しい、働きたくとも働けない。
- やめて欲しい。反対。
- 国が決めたことだからしょうがない。でも本当は下げて欲しくない。
- 世の中厳しいのでわがままいえないが、日本全体の基準が下がることになる。

まとめ

- 疾病やそれを原因とする失業等が原因で生活保護申請となっている方が多く、致し方なく生活保護受給につながっているという状況がある。
- 食事・被服・地域活動・教養娯楽等の生活状況の低さについては他県の調査結果と大きく変わらず。地域差が無いということが明確である。
- すでに「最低限度の文化的な水準の生活」を保障している生活レベルとはいいい難い、ギリギリの(余裕の無い)状況である。

提言

- 今回の保護基準の切り下げは、これらの生活実態をまったく検証せずに行われており、拙速に実施するならば、さらに深刻な生活困難を拡大し、いのちと健康を危険にさらす可能性が大きいことは明らかである。
- 今回の生活保護基準の切り下げを直ちに中止することを、あらためて強く求める。
- 閣議決定された申請の条件を厳しくする「法改正」は国会に上程しないことを強く求める。